



第75回 澁川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和4年4月5日（火）午後7時00分～

会場：澁川ほっとプラザ4階

講演：「急性期脳疾患の栄養管理」

講師：澁川医療センター

脳神経外科医長 合田 司 先生

新年度になりました。桜の良い季節です。

さて、今回は本研究会の会長 合田先生による講演です。本研究会では今まで予防、回復期や慢性期における摂食嚥下について取り上げてきていましたが、「急性期にはどう対応しているか」ということをお話しすることによって回復期、慢性期に至るまでの経過がより分かるのではないかと、ということで今回の講演になりました。

主な内容は以下の通りでした。

- ・脳疾患の摂食・嚥下障害
- ・急性期脳疾患での考え方
- ・症例検討

急性期においては、数時間後、数日後、数週間後の状態を予測し、「ものを食べさせて良いのか」、「食べられない場合はどうすればよいのか」を、短時間で判断しなければならぬとのこと。入院時の症状から、どういった判断をしているのかという考え方を説明いただきました。また、実際にありそうな症例ということで何パターンかご紹介いただき、経口摂取が可能なのか、禁食なのかというポイントをご説明いただきました。

入院直後にどういった原因で摂食・嚥下障害が起こり、どういった経緯で栄養管理がされているのか、わかり易かったのではないのでしょうか。次回は、栄養の話になります。ご参加、お待ちしております。



参加者内訳

職種	参加人数
医師	5 (1)
歯科医師	7 (2)
薬剤師	1 (1)
保健師・看護師	6 (0)
歯科衛生士	1 (0)
ST・OT・PT	5 (0)
管理栄養士・栄養士	9 (3)
MSW/相談員	2 (1)
介護支援専門員	12 (5)
介護職員	2 (2)
その他	4 (0)
合計	54 (15)

※カッコ内＝（参加人数のうち Web での参加）

嚥下・摂食の五期から摂食嚥下障害を考える	
1 先行期(認知期)	何をどのように食べるかを判断する時期 → 認知機能、意識障害、失認
2 準備期(咀嚼期)	食べ物を咀嚼し食塊を形成する時期 → 歯牙の異常、口腔周囲の運動障害
3 口腔期	食塊を口腔から咽頭(のど)に送り込む時期 → 舌の異常、舌の運動障害
4 咽頭期	食塊を咽頭から食道へ送り込む時期 → 咽頭・喉頭の運動障害、通過障害
5 食道期	食塊を食道から胃に送り込む時期 → 通過障害

急性期脳疾患 栄養管理の考え方 入院時の症状から考える

- ・意識障害はあるか？
- ・呂律障害はあるか？
- ・嚥下障害はあるか？
- ・嘔気・嘔吐はあるか？
- ・病状が進行するかどうか？
- ・発症以前の生活と食事習慣はどうだった？



講演資料より抜粋

【次回 第76回 澁川摂食嚥下研究会の予定】

開催について：6月7日（火）午後7時～ 澁川ほっとプラザ4階/WEB 同時配信予定

講演：「フレイルとたんぱく質／嚥下調整食について」（仮）

講師：澁川栄養士会

※新型コロナウイルス感染状況により、延期または中止となる場合がございます。